

4月10日の積雪に対する農作物等の技術対策について

平成31年(2019年)4月10日

農業技術課

1 共通

(1) 施設園芸

- ・耐雪力が劣るハウス等では、積雪の状況によって中柱等の補強対策を実施する。
- ・暖房設備が設置してあるハウス等では、内張カーテン等を開けて融雪を促す。
- ・融雪処理後に滞水しやすい畑やハウス周り等では、水路や排水溝などを確保し、速やかに雪解け水の排水を促す。
- ・路面状況等が悪いため、融雪作業の際は事故のないよう十分な安全対策を講じる。

2 露地野菜

(1) レタス、ハクサイ、ブロッコリー、白ネギ等

- ・今後の状況により、積雪量が多くなった場合は、土や消雪促進剤（融雪促進資材）を散布し、融雪処理を実施する。ただし、翌朝に極端な低温（凍霜害）が予想される場合は、融雪のタイミングに留意する。

[融雪処理（雪面黒化法）]

- ・黒色の資材を散布し、日射吸収により融雪を図る方法。散布のタイミングの判断が重要となる。

使用できる資材は、木炭（木灰）・土壌（培土）・くん炭・堆きゅう肥（完熟）などで、黒色の資材に限らず、有色の資材であれば何でも使用可能である（作物が出荷前のステージでは使用する資材や散布場所に留意し、異物混入等にならないようにする）。

なお、市販の土壌改良資材の中で融雪促進に利用できるものは、次の資材である。

区分	主な代替資材（肥料）名	施用量のめやす	備考
リン酸資材	ようりん、BMようりん	40～60kg/10a	
石灰質資材	苦土炭カル、苦土石灰	40～50kg	
ケイ酸資材	ケイカル 等		施用基準まで
微量元素資材	ミネカル 等		〃

[参考]

土壌（畑土）		40～50kg	火山灰土等
くん炭		10～15kg	
炭（粉炭）		40～80kg	
完熟堆肥		1,000kg	牛糞堆肥等

注）完熟堆肥等の雪上施用は、散布を予定していたほ場で行う（基本的には作付け済の畑では行わない。特に収穫前のステージに注意する）。

(2) ベタがけ栽培

- ・今後の気温上昇にともなって病害が発生しやすい条件になった場合は、ベタがけ除去時に薬剤散布を行い、病害予防に努める。